UIターン 島根県川本町移住パンフレット 2026－2027

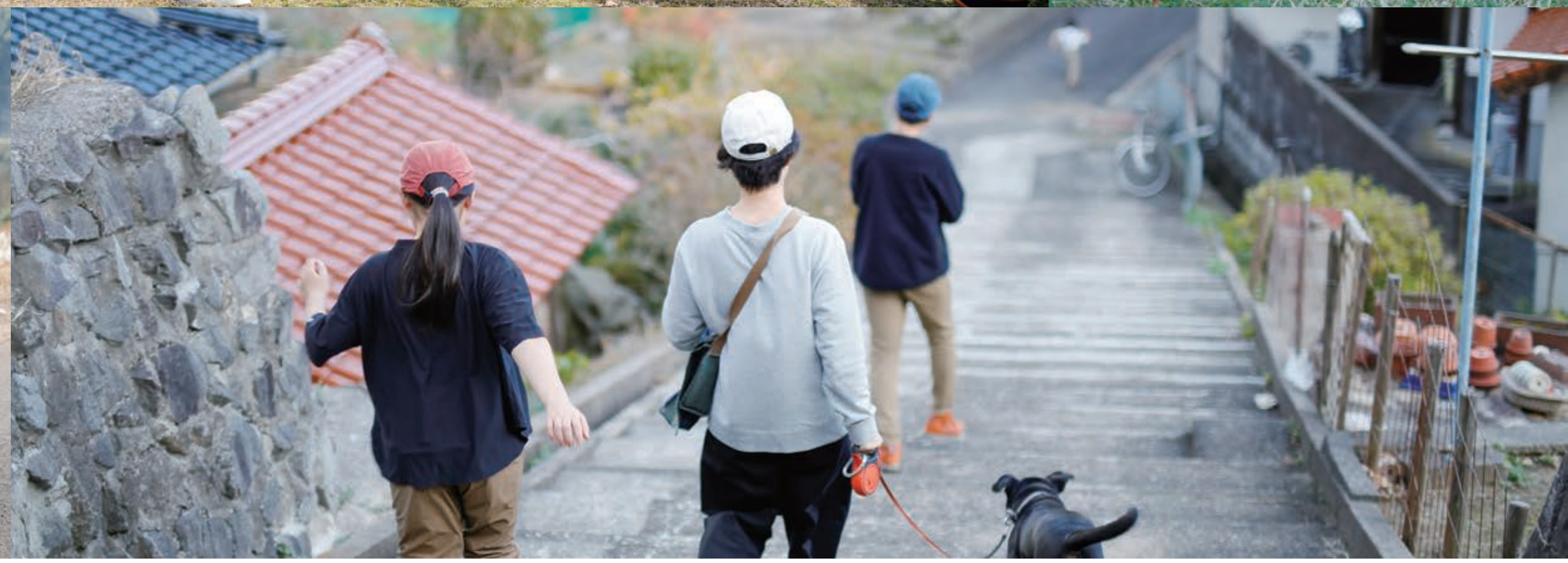
だから こそ。川本。

かわもと暮らし

これからの時代の「地方移住3.0」

暮らしがあって、移住がある。

これまで多くの方々が川本町に移住・定住されていますが、その共通点は、それぞれに「自分の暮らしや居心地の良さを大切にしている」ということです。地方移住を考え始めると多くの場合、仕事の有無や住宅の相場、支援制度の手厚さなどといった条件面に気を取られてしまいがちですが、移住はあくまで手段であって、目的ではありません。移住はいわば、「より自分らしく生きたい」という理想の暮らしを実現するための「環境の再設計」です。流行やブームに惑わされることなく、自分らしい生き方を見つけるための健やかな暮らしを川本町で始めてみませんか？



Contents RELOCATION GUIDE 2026—2027

丁度いい暮らしが魅力のコンパクトタウン
川本町のこと …… P-04

移住にまつわるあらゆる相談にワンストップで対応する
かわもと暮らし …… P-06

移住者に選ばれる「移住しやすい町の正体」とは!?
かわもと移住FAQ …… P-07

豊かな自然の中で地域に愛される
子育てのこと …… P-08

少人数だからこその魅力と連携教育
教育のこと …… P-09

自分らしい理想の住処をみつけよう
住まいのこと …… P-10

前職での経験が活かされる売り手市場
仕事のこと …… P-11

暮らしがあって、移住がある
川本町での暮らし …… P-12

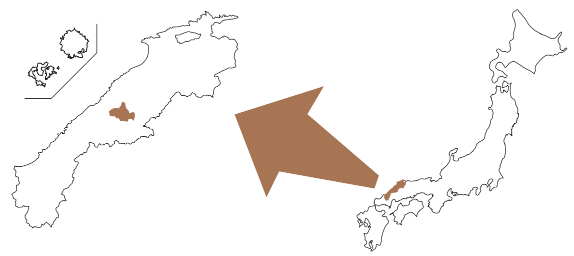
心配なことは先輩に聞いてみよう
先輩移住者の紹介 …… P-13

100年のその先へ、小さな町の大きな挑戦
川本町のこれから …… P-14

KAWAMOTO-MACHI
Ochi District Shimane Prefecture, Japan

Maps & Directions

川本町へは広島・出雲から車で約1時間半の道程。広島、出雲空港などを利用する空路のほか、JR広島駅（新幹線口）から町内を経由する高速バス「石見銀山号」が運行されています。鉄道（最寄り駅からバス）の利用も可能ですが、運行本数が少ないため、車や駅・空港からのレンタカーの利用をおすすめしています。

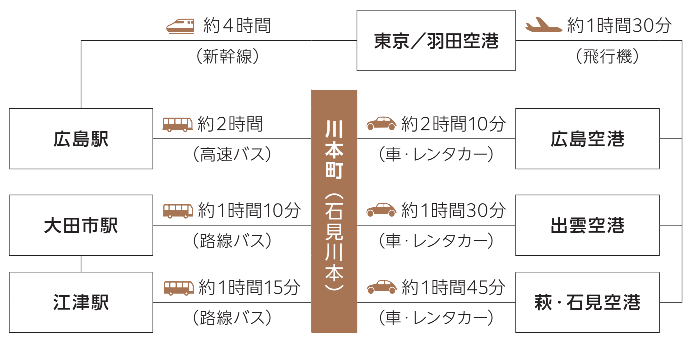


車でお越しの場合

広島市街から…約1時間30分（浜田道「大朝IC」経由）
出雲市街から…約1時間30分（山陰道「仁摩IC」経由）
益田市街から…約1時間40分（山陰道「江津IC」経由）

公共交通機関をご利用の場合

JR山陽本線「広島駅（新幹線口）」より…高速バス（石見銀山号）約2時間
JR山陰本線「大田市駅」より……………路線バス（石見交通）約1時間10分
JR山陰本線「江津駅」より………………路線バス（石見交通）約1時間15分



丁度いい暮らしが魅力のコンパクトタウン

川本町のこと

川本町は、島根県の中央部に位置し、町を縦貫する「江の川」の水運により、古くは石見銀山（世界遺産）の玄関口として栄え、石見地方の要衝、「交流の町」として発展してきました。「緑にこだます音楽の里」をテーマとしたユニークなまちづくりに取り組み、昭和60年に「音楽の町」を宣言。「石見神楽」や「江川太鼓」などの伝統芸能も盛んです。

平成の大合併（市町村合併）において、県内本州側で唯一の単独町政を貫き、「地域性を守りながらコンパクトなまちづくりを進める」という独自の道を歩んでいます。近年は、健康食品であるエゴマの産地として全国に知られ、カヌーや女子野球などのスポーツ振興にも力を入れています。

人口

〈令和８年２月現在〉

人口	男	女	世帯	15歳未満	65歳以上	高齢化率
2,910人	1,381人	1,529人	1,576戸	270人	1,298人	44.6%

インフラ

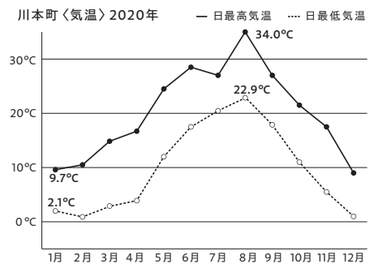
〈○：可　△：一部地域で不可〉

光回線	CATV	携帯４社	ガス	下水
○	○	△	プロパン式	合併浄化槽

※下水は一部地域で集落排水となっています

気候

川本町の気候は、山陰地方特有の高温多湿型で平均気温は約14℃、年間の降水量は約1,700～2,000㎜です。１年を通じて比較的温和な気候ですが、12月～3月は最低気温が0℃を下回る日もあるため、水道管の凍結には注意が必要です。積雪は年に数回（10～30cm程度）あるものの、日中の平均気温が高いことから根雪になることはありません。



交通

町内の交通手段はバスやタクシーですが、自家用車は大人１人に１台が必要といわれるほどの必需品です。信号機が数えるほどしかなく、長距離の運転にもほとんどストレスを感じないため、片道１時間の道程も十分に生活圏内。週末には広島まで遊びに出掛けるという方も多くおられます。冬季は、路面の凍結に備えてスタッドレスタイヤが必要で四駆車が推奨される地域もあります。

地勢

中国山地の北側に位置し、総面積は106.39km^2。町全体の約81.6%を山林が占める典型的な中山間地域で、東西に16.5km、南北に13.5kmの菱形をしています。川本・美郷・邑南３町からなる邑智郡に属し、大田市・江津市に隣接しています。町は、川本・因原・三原地区の３つの公民館区によって分類されることも多く、それぞれに異なる特徴を持っています。

川本地区

徒歩圏内に商店街や役場・学校などの公共施設、医療・金融機関などが集まっている町の中心地です。川本町が「コンパクトタウン」と呼ばれる所以ともなっている地区です。

因原地区

国道沿いにスーパー、コンビニ、ホームセンターなどの商業施設が集積し、買い物等に大変便利な地区です。道の駅を中心に交通の拠点としての役割も担っています。

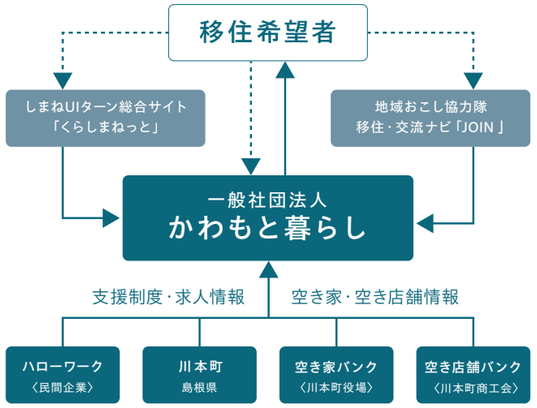
三原地区

町の中心部から車で約15分、田園風景が広がる農村部です。地域活動が活発で、住民主体の相互扶助の仕組み「三原モデル」を実践する地域自治のモデル地区でもあります。

移住にまつわるあらゆる相談にワンストップで対応する

かわもと暮らし

川本町では、移住・定住についての相談窓口「かわもと暮らし」を開設し、専任のスタッフが仕事や住まいなど、移住・定住にまつわるあらゆる相談にワンストップで対応しています。対面・オンライン等での個別相談はもちろん、宿泊費無料の移住体験ツアーや空き家バンク等での住まい情報の提供、就業先の紹介なども行っています。



旧・JR三江線「石見川本駅」前に事務所を構える「一般社団法人 かわもと暮らし(旧・かわもと暮らし情報センター)」は、開設から10年を迎えました。このような移住・定住に関する専門窓口を役場外に置く市町は珍しく「過疎発祥の地」として知られる島根県にあって、早くから移住・定住に関する先進的な取り組みを行ってきたことを象徴する存在となっています。

主な業務内容

情報発信	WEBサイト・SNS等の運営
移住相談会	東京・大阪などの移住フェアへの参加
住まい探し	空き家・空き地バンクの運営
仕事探し	町内事業所の紹介・就職相談
移住体験	移住体験プログラムの実施
移住相談	対面・メール・オンライン等の移住相談

移住体験プログラム

事前の相談内容を踏まえ、職場体験や空き家の見学のほか、保育所、学校、商業施設、病院などオーダーメイドな体験プログラムを個別に作成いたします。〈宿泊費無料〉

かわもと暮らし

移住体験プログラム

移住プランナー **浪崎　健一**

「私も10年程前に家族で川本町に移住してきた移住者のひとりです。移住先の生活に求めるものは人それぞれですが、相談に来られる方の思いを大切にし、その後の生活も含めてしっかりとサポートいたします。個々の事情にも柔軟に対応していますので、まずはお気軽にご相談ください。」

移住後の相談相手は？

移住後の相談先としても「かわもと暮らし」の役割は大きく、多くの移住者が相談に訪れています。行政では対応しきれない個別の相談にも細やかに対応してくれるので、移住者にとって心強い存在です。支援制度などに関する問い合わせについては、役場の担当課が直接対応しています。

生活費が安いってほんと？

田舎暮らしは生活費が安いとよく耳にしますが、家賃等の地価が安い分、車の維持費や冬場の暖房費など都会ではあまりかからない出費もあります。トータルで見れば安くなることももちろんありますが、それだけを移住の目的にすることは、あまりおすすめしていません。

買い物が不便じゃない？

スーパーやコンビニ、ホームセンターなど、生活に必要な食料・日用品を購入できるお店は町内に揃っています。町外に（車で約40分）出れば、ショッピングモールなどの大型商業施設もあり、ネット通販等も利用することで、「買い物に不便を感じることは、ほとんどない」というのが多くの移住者からの意見です。

災害や雪の心配は？

島根県は他県に比べて、地震や台風による被害が少ない傾向にありますが、近年の異常気象などでどの地域においても100％安全ということはありません。特に水害に関しては、過去の経験から、町の総力を挙げて対策を進めているところです。積雪については、主要道路の除雪などが行われますが、玄関先などの雪かきが必要な場合があります。

塾や習い事はあるの？

町にはジュニアスポーツクラブのほか、英会話やピアノ、そろばん、プログラミング、スイミングといった子どもの習い事が意外なほど豊富で「石見神楽」や「江川太鼓」などの伝統芸能の団体に所属しているお子さんも多くいます。高校の公設民営塾もスタートし、オンライン塾等も含めて町内外に様々な選択肢があります。

ネット環境はどうなの？

町独自の光ファイバー網である「まげなねっと」を整備しており、町内全域で高速インターネット（NTT西日本が提供する「フレッツ光マイタウンネクスト」）を利用できる環境が整っています。図書館などの公共施設や観光施設では、公衆Wi-Fiの利用できるスポットも多く、一部地域を除き携帯大手４社の電波状況も良好です。

移住者同士の情報交換は？

地域の中で移住者だけが集まる交流会などは特に開催されていませんが、それは逆に移住された皆さんが、地域の中にうまく溶け込めている証拠とも考えられます。町内で開催される様々なイベント等への参加は、移住者家族の方が多い傾向にありますが、特に参加を強いられることはなく、SNS等を通じて個々に情報交換を行っています。

高校・大学進学はどうなる？

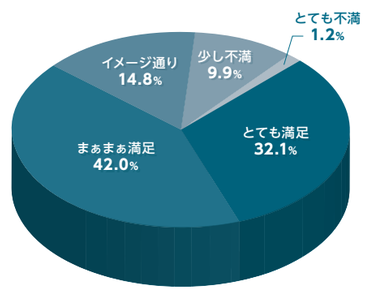
町内に県立高校があることが町の大きな特徴となっており、その魅力化に町ぐるみで取り組んでいます。県外生（地域みらい留学生）も多く、町内3カ所の滞在施設で集団生活をしながら、部活動や地域活動に取り組んでいます。島根県内にある大学は、国立大学が１校、公立大学が１校、短期大学や専門職向けの教育機関がいくつかありますが、いずれも距離があるため、多くの学生が寮などで一人暮らしをしています。

移住者に選ばれる「移住しやすい町」の正体とは!?

かわもと移住 FAQ

川本町には、交流の町として発展してきた歴史的な背景があり、都会的な感覚と外部から来た人を受け入れる寛容さがあります。移住後のトラブルなどもほとんど聞かれず、顔の見える緩やかな関係の中でそれぞれに自分らしい暮らしを楽しんでいます。全国トップレベルの手厚い支援制度に加え、人口や町全体の規模感、移住専門の相談窓口があることなどから、移住者からも「移住しやすい町」として評価されています。

川本町への移住に満足していますか？



※川本町移住者（2010-2021年の転入者）意識調査アンケート結果より抜粋

豊かな自然の中で地域に愛される

子育てのこと

土手を散歩したり、原っぱで虫を探したり、日常の中で自然を身近に感じながら、遊び、学ぶことができるのが、川本町での子育ての一番の魅力です。新鮮な食材に恵まれ、地域の人々に温かく見守られながら子ども一人ひとりが安心して成長できる環境は、都会での暮らしとの大きな違いといえます。

川本・因原・川本北保育所

町内に3カ所の保育施設があり、いずれも待機児童はいません。田植えや芋掘り、土手遊びなどの自然環境を活かした様々な体験活動を取り入れた保育が行われており、土曜保育に加え、一時保育（川本保育所のみ）、障がい児保育にも対応しています。

＊町内に幼稚園はありません

子どもの安全

都会と比べ交通事故などのリスクが低く、犯罪件数も極端に少ないため、子どもたちが安心して過ごすことができる環境といえます。また、地域による見守りが行き届いており、行事やイベントなどを通じて様々な人とふれあう機会も多く、日常的に社会性を育むことができます。

医療の安心

町の中心部に歯科医院が２つ、総合病院が１つあり、郡内(車で約20分) に24時間体制の救急医療機関である公立邑智病院があります。出産・乳幼児医療にも対応し、緊急時にはドクターヘリによる大学病院等への搬送が行われます。

子育て支援

他市町に先駆けて、所得制限なしの保育料無償化や完全給食の実施、小・中の学校給食無償化や高校卒業（18歳）までの子どもの医療費全額無料など全国トップレベルの子育て支援に町を挙げて取り組んでいます。

＊詳しくは、別冊「川本町UIターンパンフレット／移住後の支援制度一覧」をご覧ください

ファミリーサポート

町内の中間支援組織「たすけあい川本」によるファミリーサポート（有料）を利用することができます。事前登録を行い、保育園の送迎や仕事・病気などで一時的に子どもの世話ができない場合などに公共施設や援助会員の自宅などで子どもを預かってもらえる制度です。

○利用料：300円／30分（平日日中）・400円／30分（早朝・夜間・土日・祝日・年末年始）

病児・病後保育

公立邑智病院に併設された病児保育施設「病児保育室 コスモス」では、専任の保育士と看護師が日中の病児保育を行っています。急な発熱時など当日の受付でも利用が可能で、食事サービス（有料）をお願いすることもできるため、安心して子どもを預けることができます。

○保育料：1,000円／半日・2,000円／1日

切れ目のない相談支援

出産前後の母親と新生児を対象とした産後ケア事業や、保健師による訪問指導、在宅児向けの交流・支援事業などの取り組みを実施しています。助産所と連携した産後ケアや乳幼児期健診などの切れ目のない支援が特徴です。

＊詳しくは、別冊「川本町UIターンパンフレット／移住後の支援制度一覧」をご覧ください

川本小学校

1学年の児童数は20人前後。仲間づくりを基盤とした個々の学力向上にむけた「学び合い学習」に力を入れています。制服を着用し、通学は徒歩やスクールバスによる集団登校です。

川本中学校

1学年20人前後の小規模校ながら、吹奏楽や野球、バレーボール、陸上など部活動が盛んです。通学には徒歩・自転車のほか、無料のスクールバスを利用します。

島根中央高等学校

県外生含め1学年90人前後。カヌーの強豪校として知られ、吹奏楽や男子・女子硬式野球などの部活動のほか、ボランティア活動も活発で地域と関わる機会が多いことが特徴です。

放課後の活動

子育てサポートセンターでは、小学校敷地内のスペースで小学生を対象とした「放課後の子どもの居場所事業（児童クラブ）」を開設しています。また、休日などにも有志による子どもの見守り活動や体験活動などが行われています。

ジュニアスポーツクラブ

小学生を対象とした「KSC かわもとジュニアスポーツクラブ」では、地域の指導者による様々なスポーツ教室があります。費用の安さに加えて、スペースや設備を贅沢に使えることも魅力です。

○軟式野球・剣道・柔道・フットサル・ミニバスケットボール・バレーボール・eスポーツ等

体験活動

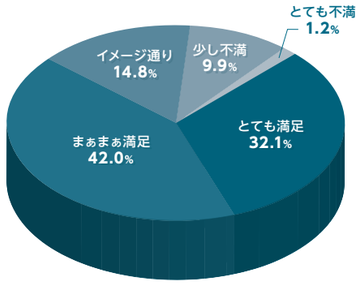
未就学児も対象に町教育委員会が実施しているK-POP（かわもとぽかぽか親子プロジェクト）では、「タケノコ掘り」や「鮭の観察会」など、毎回ユニークなイベントを企画しています。その他にも、県内各所で様々な体験活動が通年で実施されています。

少人数だからこその魅力と連携教育

教育のこと

町には小学校、中学校、高校が１校ずつあり、連携教育を進める上での強みとなっています。将来的には、校舎の建て替えによる小・中学校の近接化も予定されており、より一層の連携が期待されます。また、学校教育において、地域との関わりがとても大切にされており、近隣の専門家を講師として招く特別授業や和太鼓の演奏を通じたデンマークとの国際交流なども始まっています。

川本町の教育環境に満足していますか？



※川本町移住者（2010-2021年の転入者）意識調査アンケート結果より抜粋

あそラボ

コミュニティカフェ「Orange」を拠点とした地域教育プロジェクト「あそラボ」では、中・高生が中心となって、カフェの運営やイベント出店など様々な地域活動に取り組んでいます。

自分らしい理想の住処をみつけよう

住まいのこと

空き家バンクや最大200万円の住宅助成金、定住促進住宅の整備などの取り組みによって、都市部よりも戸建住宅への入居がしやすいのが特徴です。

川本町では、多くの地域で下水道ではなく合併浄化槽を使用しているため、その維持・管理費が別途必要となります。また、ガスはプロパンガスとなりますが、近年はオール電化の住宅が増えています。

川本町空き家（空き地）バンク

空き家バンクは、空き家の売却・賃貸を希望する所有者からの登録を受け、物件情報をWEBサイトなどで公開する制度です。川本町ではトラブル回避のため、専門家である宅地建物取引事業者（仲介事業者）が所有者への仲介・交渉を行っています。

＊物件の賃貸・売買は宅地建物取引事業者を介した所有者との直接契約となります

かわもと暮らし／川本町空き家バンク

町営住宅（賃貸）

町が管理する集合住宅です。世帯用・単身用とがあり、入居には所得条件等を満たす必要があります。集合住宅の他、ペット可の戸建住宅もあります。

＊家賃は所得等により変動します

定住促進住宅

町が提供する庭・駐車場付の新築戸建てオール電化住宅です。家賃は子ども1人につき5千円が減額されます。（最長10年／3人まで）

＊募集状況は年度により異なりますので最新の募集要項をご確認ください

賃貸住宅

町内には単身者向けのアパートが比較的多く、入居状況は随時変動します。家賃相場は1Kで4万円前後となっています。

住まいづくり応援事業

川本町では、良質な住まいの充実を図り定住を促進するため、様々なかたちでの新たな住まいづくりを応援しています。町内に新築または、中古住宅を購入・改修する場合に建築費や購入・改修費用の一部が助成されます。

＊詳しくは、別冊「川本町UIターンパンフレット／移住後の支援制度一覧」をご覧ください

かわもと暮らし／住まいづくり応援事業

地域おこし協力隊制度

川本町では雇用型と委託・起業型の2つの受け入れ体制を設け、隊員の活動支援補助金の支給等を明確に制度化しています。採用日は、原則4月1日と10月1日の年2回です。

かわもと暮らし

地域おこし協力隊

＊詳しくは、別冊「川本町UIターンパンフレット／川本町地域おこし協力隊」をご覧ください。

就農支援

島根県には65歳までを対象とした就農支援制度があり、専業農家や半農半Xなど目指す就農スタイルに合わせた様々な支援を行っています。

かわもと暮らし

新規就農支援

産業体験プログラム

島根県にＵＩターンし、農業・林業・漁業・伝統工芸・介護分野の産業を体験する方に12万円／月（1年間）の体験者助成金を支給しています。更に中学生以下の子どもがいる家庭には1世帯あたり3万円／月が加算されます。

くらしまねっと

UIターンしまね
産業体験

起業支援

川本町商工会による創業・経営支援サイト「つながる、かわもと。」では、起業に関する補助金や空き店舗の情報のほか、先輩起業家のインタビュー等も掲載しています。

川本町商工会

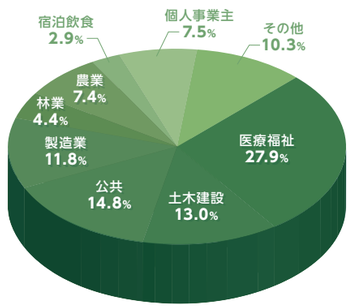
つながる、かわもと。

前職の経験が活かされる売り手市場

仕事のこと

移住者へのアンケート結果からは、個人事業主のほか、土木や建設、医療・福祉、製造業などへの就業が多いことが分かります。資格を必要とする職種もありますが、町内企業は移住者の採用に意欲的で、IT関連など前職の経験・知識を活かし、他業種で活躍している方も多くいます。就職相談は、「ハローワーク川本」のほか、「かわもと暮らし」でも町内事業所の紹介などを行っています。

移住後の職種は？（無職・専業主婦を除く）



※川本町移住者（2010-2021年の転入者）意識調査アンケート結果より抜粋

就業支援

川本町では農業などの第一次産業の就業支援に力をいれており、多くの方が農・林業の分野で活躍しています。また、地域おこし協力隊制度や開業支援制度を活用した町内での起業、マルチワークやリモートワークといった新しい働き方を実践している方もいます。

企業誘致

県外企業の誘致にも力を入れる川本町では、2018年に静岡県富士市に本社を構える健康食品（サプリメント）の受託製造メーカー「株式会社 三協」の川本工場が三原地区に進出しました。近隣地域を含む地元出身者が多く採用されており、地域の新たな雇用創出に繋がっています。

暮らしがあって、移住がある

川本町での暮らし

ご夫婦ともに島根県出身の深野さん一家は、2021年に横浜市から川本町に移住されました。江津市出身のご主人・幸太さん（38歳）は、救命救急士として川本町内の民間病院に勤務。浜田市出身で実家が石州和紙の工房を営む幸代さん（38歳）とは、高校の同級生だったそうです。古民家をリノベーションし、長男・陽太くん（12歳）、次男・景太くん（10歳）の家族4人で暮らす深野家の「足るを知る」暮らしぶりについて、幸太さんにお話を伺いました。

移住のきっかけ

長男の小学校入学を前に住まい探しをするうち、都市部で家を持つことに疑問を感じるようになりました。妻も同じ思いだったようで、島根に帰ることを提案してくれました。仕事は何でもいいと思っていたのですが、川本町の民間病院で救急救命士を募集していることを知り、新しい環境にチャレンジしてみようという気持ちになりました。移住先として川本町を選んだ理由は、前職の経験が活かせる仕事があったというのが大きかったと思います。

暮らしのこと

移住当初は、町が紹介してくれた町営住宅に住み、手頃な物件をじっくり探すことにしました。その後、空き家バンクを通じて現在の平屋を見つけたのですが、その頃には知り合いも沢山できていて、地元の工務店に改修を依頼することにしました。母屋・納屋・倉庫の建物３棟に加え、庭や畑、山林も付いている物件だったので、ある程度場所を絞ってリフォームを行いました。欲しかった薪ストーブも手に入れ、自分でも手を加えながら、少しずつ理想の住まいに近づいているような気がします。

川本町での生活で日々感じるのは、過不足のない暮らし。薪の準備や畑仕事、地域の活動や行事への参加など、「今日は何をしようか」と迷うことがなく、楽しみながら、その時々でやらないといけないことに向き合う日常が、自分の性に合っているような気がしています。

仕事のこと

地域医療に注力する民間病院の救命救急士として、緊急時の救急搬送や外来・訪問看護の患者対応などを行なっています。妻は、まちづくりセンターと道の駅の仕事を掛け持ちしていますが、せっかくの環境を活かすため、現在は新規就農を目指して農業大学校に通っています。

子育てのこと

「他人に迷惑をかけないように」とだけは言い聞かせていますが、基本的になんでも自由にやらせています。兄弟ともに柔道と将棋は続けていますが、長男は、最近DTM（作曲）にはまっているようで、無料の音源をサンプリングして自作の楽曲をつくったりしています。次男は、色んなことに積極的な方なので、フットサルやカヌー、絵画教室などにも通っています。

これからやってみたいこと

地域の仲間とRMO（地域運営組織）に参加しているので、その活動の一貫として、今後空き家管理のお手伝いみたいなことができたらと考えています。PTAの役員をさせて頂いていることもあり、教育にも関心がありますが、個人的には、週末などに家族が自由に過ごせる小屋づくりに挑戦してみたいと思っています。

心配なことは先輩に聞いてみよう

先輩移住者の紹介

誰しも見知らぬ土地への移住は不安なことばかり。そんなときは、先輩に話を聞いてみるのが一番です。自分たちも同じ境遇だったからこそ、親身になって相談に乗ってくれるはず。

OTO-LaVo（オトラボ） 相原 由紀 さん

母親の出身地である川本町に移住してきた、いわゆる孫ターン。時間の融通の利くテレワークスペースに勤務しながら、家族と定住促進住宅の新築戸建に住まう。遊ぶように暮らす毎日に大満足。

(株)スエヒロ 森谷 太郎 さん

野球が盛んな川本町にあって、小学校の頃から野球三昧。岡山、広島と進学し、県内企業にUターン就職する。目標は、地元のチームで国スポに出場することで、2030年島根国スポ開催が今から待ち遠しい。

(合) アグリムーン 柴原 かんな さん

千葉県から家族でIターン移住。夫とともにえごまの製造・加工・販売を行う「合同会社アグリムーン」を設立し、えごまの葉を用いた「えごま茶」の開発などを行う。町民参加型の自主制作映画もプロデュース。

学習支援員 平井 みどり さん

鹿児島県出身で夫の転職をきっかけに嫁ぎ先の京都から家族5人でIターン移住。中学校に勤務しながら、家族で市民ミュージカルにも参加する、歌って踊れる学習支援員。

邑智郡森林組合 小溝 一平 さん

前職は航空自衛官。産業体験プログラムを活用して森林組合にIターン就職し、裏山付きの一軒家と薪ストーブをゲット。集落営農や地域イベントにも積極的に参加し、狩猟免許も取得。妻子５人・犬２匹とともに大自然と格闘するタフガイ。

デイビット・セナン・ヌモンビィー さん

出身はスワジランド王国（現エスワティニ王国）というアフリカの一国。結婚を機に来日し、故郷を思い出させる風景が気に入って家族でIターン。農業関連の仕事に従事し、綱引競技で大活躍する5児の父。

やんちゃんの里 山口 瑞恵 さん

短大卒業後に英国へ語学留学。大阪で金融会社に勤務後、家業のどぶろくづくりを継ぐため帰郷する。パッケージデザインを一新するなど、「どぶろく特区」の新たな担い手として奮闘中。

紙布織山内 山内 ゆう さん

東京、京都で和裁・染織を学び、安来市の出雲織工房に入門。川本町地域おこし協力隊として活動後、染織家として独立。伝統工芸の分野での入賞多数。

114 Films 木下 陽介 さん

東京でカメラマンとして独立後、コロナ禍を機に家族でUターン。映像作品の受賞歴も豊富で、町民とつくる小さなメディア「かわもとTV」の運営も行う。

100年のその先へ、小さな町の大きな挑戦

川本町のこれから

KAWAMOTO-MACHI CENTENNIAL 1927-2027

2025年に合併70周年を迎えた川本町は、2027年には誕生から100年となります。合併70周年の記念式典では、幾多の困難を乗り越え、現在に至る川本町のこれからの指針として「４つの構想」が示されました。治水や地域医療等の課題解決に加え、女子野球を中心とした人材交流、更なる教育環境の充実など「小さな町の大きな挑戦」は続きます。

次世代につなぐ「コンパクトタウンかわもと」の実現

令和４年３月に、県や本町を含む流域の市町も加わって、国土交通省江の川流域治水推進室により策定された「治水とまちづくり連携計画」に、瀬尻・久料谷地区、谷地区への宅地嵩上げによる整備の方向性が盛り込まれ、令和５年度から、着実に事業が進められています。

令和７年３月に、「都市再生特別措置法」に基づき、少子高齢化にあっても、将来にわたり持続可能なまちであり続けるための、道標となるよう策定した「立地適正化計画」により、小・中学校の近接化をはじめとする、次世代につなぐ「コンパクトタウンかわもと」の実現に向けた取組を進めていきます。

矢谷川河口付近の整備完了後のイメージ図

幸せを実現する生活環境づくり

社会医療法人仁寿会・加藤病院により進められている「地域総合ヘルスケアステーションかわもと施設群」の新築移転整備が完了し、令和８年春に新病棟が竣工しました。

今後、関係機関や中間支援組織との緊密な連携のもと、本町ならではの「地域包括ケアシステム」を一層充実し、医療・介護・福祉サービスを強化していきます。

社会医療法人仁寿会 加藤病院

まちの将来を担う人づくり

後期中等教育（高校）段階においては、公設民営塾を設置し、県立島根中央高等学校の魅力化を一層支援していきます。

義務教育段階においては、昭和47年７月の激甚災害からの復興を願い結成され、半世紀以上の活動を誇る「江川太鼓同好会」との間で、20年以上にわたり交流を続けている、デンマークの和太鼓チームとの交流などを礎として、国際化対応力を備えた新たな人材育成策を構築していきます。

デンマーク・コペンハーゲン

新しい人の流れと若者や女性が活躍できる場づくり

令和６年11月に、全日本女子野球連盟から「女子野球タウン」の認定を受け、令和７年４月には、「島根フィルティーズ」が始動し、主に地域おこし協力隊員である選手と、地域との交流による活性化が、全国から注目を集めています。

今後は、進めているセカンドキャリア支援を充実させるとともに、ご協力いただける事業所との連携により、多様な働き方を創出し、若者や女性に選ばれるまちづくりを進めていきます。

島根フィルティーズ

一般社団法人 かわもと暮らし 0855-74-2110 総合相談窓口 月-金 9:00-17:00〈土・日・祝日定休〉
〒696-0001 島根県邑智郡川本町大字川本608-1 info@kawamotogurashi.jp https://www.kawamotogurashi.jp